

研修会

「脳血管障害患者のリハビリテーション～今～Ⅱ」

研修会企画 麻生リハビリテーション専門学校 松崎 哲治

講師&テーマ

壺：「澤」；福岡国際医療福祉学院 玉利 誠 先生
「脳血管障害片麻痺患者の評価と治療 概論」

「天」；麻生リハビリテーション専門学校 松崎 哲治 先生
「脳血管障害片麻痺患者の評価と治療 基本治療」

式：「山」；専門学校 柳川リハビリテーション学院 長野 毅 先生
「脳血管障害後片麻痺者の歩行特性と治療 ～歩行能力向上に必要な運動機能の改善～」

「帝」；麻生リハビリテーション専門学校 近藤 昭彦 先生
「脳血管障害片麻痺患者の高次脳機能障害とADL」

近年の神経科学、脳科学の進歩は目覚しく、神経細胞の新生や再生、神経画像法の進歩など枚挙に暇がありません。神経研究の進歩の成果は、多くの中核神経障害患者の治療への応用、発展が期待できます。しかし、社会基盤の整備に伴い入手可能な学術論文の数や著書は多くあり、増加した膨大な情報の中から、必要な情報を必要に応じて取舍選択する手段が、求められます。そして、今だ試行錯誤されているというのが、脳血管障害患者のリハビリテーションの現状です。

そんな中、大事なものは、その情報をいかに臨床応用するかです。また、多くの研修会もあり、それにおいても参加を取捨選択し、参加後いかに研修会内容を臨床応用するかが求められます。

今年も、概念から各論までを通して、更に、昨年度を上回る内容で、今一度、血管障害患者の評価と治療を整理し学習し、より多くの脳血管障害患者様の笑顔が増えることを望み、本研修会を企画いたしました。

日々、自分が何に悩み、どのように解決手段を選択・試行錯誤し、臨床応用し、仮説検証作業を行い、臨床を行っているかを、できるだけ症例を交え述べ、実技を行っていきます。

参加希望の方は、下記要項に従い、申し込み願います。

開催日：壺：10月8・9日（土・日） 講堂

式：12月3・4日（土・日） 講堂

開催場所：麻生リハビリテーション専門学校（福岡市博多区東比恵3-2-1）

講義内容：壺・式 共に講義時間は、

土：14：00～18：50（4.5時間）（受付開始：13:00）

日：10：00～15：50（4.5時間）

となっております（質疑応答を含め）。

受講費：単日毎で受付ます。単日3000円です。ただし 壺・式 毎に両日参加の方は5000円です。

定員：壺：100名

式：100名（壺 参加者を優先します。）

申込期間：H23年7月15日～（先着順・定員で必ず締め切ります。）

申込方法：下記、事務局にメールにてお願いします。

件名：「脳血管障害疾患研修会 壺 参加希望」または「脳血管障害疾患研修会 式 参加希望」

内容：①氏名（ふりがな） ②性別 ③職種 ④勤務先 ⑤勤務先住所 ⑥勤務先TEL

⑦経験年数 ⑧参加希望日程「土のみ・日のみ・両日」から選択下さい

* 件名や申し込み内容に不備があると、受付が完了できないことがありますのでご注意ください。

* 受講の可否につきましては、随時申し込みをされたMailアドレス宛に返信させていただきます。

その他：駐車場はありません。昼食は、各自で準備願います。

事務局：麻生リハビリテーション専門学校 理学療法学科 松崎 哲治

〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3丁目2番1号

mail：matutetu@asojuku.ac.jp

講師紹介



麻生リハビリテーション
専門学校
松崎 哲治
NEPSIR 代表

国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院を卒業後、これまで中枢神経障害（脳血管障害・脳性麻痺 等）患者のリハビリテーションを専門病院で11年間携わってきた。それと共に、中枢神経障害患者の姿勢制御（坐位・立位）や立ち上がり動作・歩行に関する研究を行い、中枢神経障害患者のリハビリテーションの裏づけや治療効果を判定し治療にフィードバックしてきた。また、同時に装具療法の効果や24時間姿勢ゲの効果等と治療の相乗効果などの検証も行ってきた。

今はそれら経験をいかし、麻生リハビリテーション専門学校に勤務して9年目になり、姿勢制御や歩行について更なる研究を進めている。また、学生のこころの知能指数(EQ)の研究も同時に行っている。

本研修会では、脳血管障害片麻痺の基本的治療を講義と実技（特に姿勢制御）を交えて行う。



柳川リハビリテーション学院
長野 毅
理学療法士 保健医療学修士
Neu-Tral 柳川 世話人

柳川リハビリテーション学院を卒業後、リハビリテーション専門病院に就職し、主に中枢神経障害患者のリハビリテーションに8年間携わる。その間、3次元動作解析装置と床反力計を用い、片麻痺者のステップ肢位でのバランス能力、体幹機能、歩行機能など、片麻痺者の運動特性の解明を研究してきた。

その後、柳川リハビリテーション学院で専任教員として理学療法士の育成に携わり6年目になる。学生教育とともに、片麻痺者の歩行に関する研究を継続し、松崎氏とともに、歩行の評価表、機能的片麻痺歩行評価表 (FAHG) を開発し、歩行分析の体系化に向けた取り組みを進めている。

本研修会では、これまでの研究結果を基に片麻痺歩行の特性を概説し、歩行能力向上に必要な具体的介入方法を運動学と機能解剖学の知見を加え紹介します。



福岡国際医療福祉学院
玉利 誠
Integrate Fukuoka 世話人

宮崎リハビリテーション専門学校卒業。

脳血管障害片麻痺患者の回復期リハビリテーションを中心とした臨床の傍ら、松崎・長野両氏に習い、三次元動作解析装置を用いた基本動作の解析、動作分析の方法論について検討してきた。福岡国際医療福祉学院へ異動後、下肢筋の出力比率に着目した協調制御モデルや脳機能に基づくニューロリハビリテーションに取り組み、現在は拡散テンソル画像を用いた脳の白質線維の描出、運動学習による脳の構造的変化などを中心に研究を進めている。

本研修会では、脳血管障害片麻痺の治療に関するエビデンスや歴史の変遷の概説とともに、基礎的な大脳皮質機能と運動の拘束条件に着目した運動制御理論を組み合わせた動作の分析、評価の方法についてお話させていただきます。



麻生リハビリテーション専門学校
近藤 昭彦
作業療法士
作業療法研究会代表

大分リハビリテーション専門学校を卒業後、中枢神経疾患患者を中心とするリハビリテーション専門病院に勤務し、松崎氏に習い、動作分析及び高次脳機能を踏まえたADL動作の改善について検討してきた。麻生リハビリテーション専門学校に移動後、医学モデルだけでなく、人間作業モデルやAMPS (assessment of motor and process skills) など、作業モデルと医学モデルの統合による、作業療法を模索している。今後は、更に、NIRS装置を使用し、人の情動や作業活動に関連した脳活動の変化について研究に取り組み始めている。本研修会では、基本的な脳の情報処理過程を復習し、ADLに必要な道具の使用や、空間処理について講義・実技をご提案できればと考えている。